

TIJ 日本語教育研究会通信

No.47 2012.1.31 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



明けましておめでとうございます。東日本大震災から10ヶ月経ちましたが、福島原発の格納容器内の調査結果が公表されたり、新築マンションのコンクリート基礎部分から高い放射線量が計測されたりなど、原発事故処理の困難さを改めて感じさせるニュースが報道されています。でも、一方で、外国人観光客が観光地に戻りつつあるとも聞きますし、TIJでも一般外国人学習者が増えつつあるので、外国人対象の日本語教育に携わっている立場として、今後の回復に期待したいと思います。

TIJでは、昨年夏から「中級から学ぶ日本語」に準拠した中級漢字教材の作成を、また秋から本文理解用シートの作成をしまいにしました。本号でその報告をさせていただきます。両方とも現在、クラスで使って検証しています。

本号では、「TIJだより」として、今年度（昨年4月から12月まで）TIJで行われた行事の写真に掲載いたしましたので、ご覧ください。

今年度はTIJ東京日本語研修所が設立されてから、ちょうど20年目の節目の年になります。TIJでは、2月11日に設立20周年記念式を開くことにいたしました。ご都合のつく皆様のご参加をお待ちしています。

【本号の内容】

1. TIJ設立20周年記念式開催について
2. 「中級から学ぶ日本語」準拠の漢字教材 ー作成経緯ー
3. 「中級から学ぶ日本語」準拠の漢字教材 ー使い勝手と使い方の工夫ー
4. 「中級から学ぶ日本語」本文理解用シート ー作成経緯ー
5. 「中級から学ぶ日本語」本文理解用シート ー作成しての感想ー
6. TIJだより

TIJ 設立 20 周年記念式開催について

1991年にTIJが設立されて今年で20年になります。この20年間に数多くの学生がTIJで勉強し、大学院・大学・専門学校に進学していきました。そして今や社会で活躍している人がたくさんいます。この20年の節目として、2月11日にTIJ設立20周年記念式を行うことになりました。記念式には、卒業生、在校生、現旧職員、関係者の皆様に参加していただき、20年を振り返りながら、親交を深めたいと思っています。

毎年行なっております文化交流祭りは今年は行わず、在校生の発表は記念式の中で行います。記念式に参加ご希望の方は、TIJまでご連絡ください。

期日 2012年2月11日（土曜日、建国記念日）

時間 午後2：00～5：00

場所 新小岩地区センター4階ホール

- 内容
1. 理事長、名誉所長の挨拶
 2. スライドショーと卒業生代表の挨拶
 3. 在校生の発表
 4. 交流会

「中級から学ぶ日本語」準拠の漢字教材

-作成経緯-

これまでTIJでは初級1でひらがな・カタカナ終了後『基本漢字500』を使用し漢字教育を行ってきました。全45課を終了するのは中級1の半ばで、その後は『日本語表現文型』に準拠したTIJ作成の『中級漢字1・2』を使用してきました。しかし、現在中級のメイン教科書は『中級から学ぶ日本語』を使用しており、教科書と連動した漢字教材を使う方が学生も取り組みやすく定着もよいのではないかと考え、今回、『中級から学ぶ日本語』に準拠した新しい漢字教材を作成しましたのでご報告します。

レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	中級 4	上級 1	上級 2
教科書	はじめよう1・2		中級から学ぶ日本語			上級で学ぶ日本語		上級読解
旧漢字教材	基本漢字(1～45課) 500字		中級漢字1 264字		中級漢字2 215字		上級漢字	
	↓		↓		↓			
新漢字教材	基本漢字(1～35課) 399字		新・中級漢字教材 370字			上級漢字		

せっかく準拠教材を作るので『中級から学ぶ』スタート時に同時に使い始めたいと考え、『基本漢字 500』は 35 課までで終了することにしました。そして『中級から学ぶ』の本文から未習漢字を拾い出し、そこからふるいにかけて提出漢字を絞り込みました。結果、選択した漢字の数は 1 課～5 課、7 課、9 課は各 10 字、6 課、8 課、10 課～19 課は各 15 字、20 課～25 課は各 20 字で合計 370 字になりました。

これまでの『中級漢字』は A4 サイズでしたが、学生の持ち運びの便を考え B5 にしました。1 ページに 5 漢字、主な音読み・訓読みと共に、単語とそれを使った例文を 4 つずつ載せます。例文のルビはその課までに見出し漢字として取り上げられていない場合は全てルビをつけることにしました。1 課～19 課までは各課の最後に、20 課～25 課は 2 ページ（10 字）毎に練習問題のページがあります。

以上の大枠が決まった段階で各講師が 2 課ずつ分担して提出単語・例文・練習問題を作成しました。単語・例文・練習問題について全員で検討するのは時間的に難しく、有志 5 名程度で行いました。そのため、作成者の意図が十分理解されず変更されてしまった部分もあると思います。1 課～15 課、16 課～25 課の 2 分冊とし、2011 年秋学期より試用しています。

『基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1・2』（凡人社）

『中級漢字 1・2』（TIJ 東京日本語研修所）

『テーマ別中級から学ぶ日本語』（研究社）

『日本語表現文型 中級 I・II』（筑波大学日本語研究会 凡人社）

祐川知子（TIJ）

「中級から学ぶ日本語」準拠の漢字教材

－使い勝手と使い方の工夫－

『中級から学ぶ日本語』準拠の漢字教材（以下『新教材』）の使い勝手と使い方の工夫について述べます。

まず、使い勝手の点です。教材の構成は、1 ページに見出し漢字 5 個、それぞれの漢字に 4 つの単語と例文があります。例文は下線部が白抜きになっていて、その内容にふさわしい単語を入れる問題形式になっています。（次ページ参照）

例文は、その単語を使うのにふさわしい状況を考え、3～4 人の講師が頭をつき合わせて吟味したものですから、これを充分活用しない手はありません。まず、4 つの単語の意味、品詞、接続等を確認し、学生に簡単な例文を口頭で作らせます。漢字圏の学生には母語での意味や使い方との相違点を把握させ、非漢字圏の学生には口頭での例文で意味を捉えられているかどうかをチェックします。この段階では、漢字を見て、書いて、読むという作業をします。私の担当クラスでは、次の日に、前日学習した 5 個の漢字の例文の中からいくつかをディクテーションさせます。聞いて書き取るというのは、漢字圏の学生にも

招	招く まねく 招待(する) しょうたい	① 友達の結婚式に_____された。 ② 本日はお_____いただき、有難うございます。
まね(く) ショウ	招集(する) しょうしゅう	③ 緊急事態発生で管理職全員に_____をかけた。
状	招待状 しょうたいじょう 状態 じょうたい	① 山手線は_____になっている。 ② 戦争の_____を伝えるニュースが入ってきた。
ジョウ	状況 じょうきょう 環状線 かんじょうせん	③ 泣いて目が赤い。こんな_____では、誰にも会いたくない。 ④ 友人からパーティーの_____が届いた。
族	家族 かぞく 民族 みんぞく	① 中国にはたくさんの少数_____がいる。 ② 近頃、_____が全員そろって食事をする機
ゾク	遺族 いぞく	会は少ない。 ③ 彼の死後、_____は莫大な遺産を相続した。
変	変わる かわる 変える かえる	① ご迷惑をおかけして_____申し訳ありませんでした。 ② 津波によって地形が_____たことが
か(わる) か(える) ヘン	変化(する) へんか 大変 たいへん	衛星写真からよくわかる。 ③ 彼女は髪型を_____たら、印象が_____た。
皆	皆 みな 皆勤 かいきん	① 私は高校時代、1日も休まず_____だった。 ② 飛行機が墜落したら助かる見込みは_____だ。
みな カイ	皆無 かいむ	③ どのチャンネルも_____同じニュースをやっている。

難しいようで、既習にもかかわらず、結構苦戦しながら書き取っています。それから、テキストを見て、自分の書き取った例文をチェックさせます。ここでは、聞いて書いて見てチェックという作業が入ります。このように 4 技能を組み合わせたやり方で定着を図るのが、今回試みた方法です。

学生にとっての利点は、単語の品詞にかなり注目するようになったことです。品詞を意識することで、文の構造を考えて正しい接続で文を作ることができます。左のサンプルの「変」の例文③のように、他動詞、自動詞がひとつの文に入っていれば、この二つの区別の助けになりますし、ひとつの文に音読み、訓読み双方の読み方を入れて導入している講師もいました。例文に汎用性があれば、この導入方法も役に立ちます。

使い方の工夫は今学期に試してみようと考えています。

『中級から学ぶ日本語』準拠の漢字教材ということで教材を作り替えましたが、学生にメリットがあるように使うことに主眼を置く必要があります。今までのやり方を変えないと、教科書準拠の教材を作った意味がないからです。実のところ、学生が今、この新教材をテキスト準拠だと意識して使っているとは思えません。新教材と『中級から学ぶ日本語』と 2 冊のテキストをうまく組み合わせて、語彙を広げ、本文の理解を深められるような効果を出すことを目指していきたいものです。

今考えているのは、新教材を見ながら『中級から学ぶ日本語』の本文を再現してみることです。漢字は本文での提出順に取り上げられていますから、漢字を追っていけば本文の内容が浮かんでくるはずですが。授業でどのように時間を取れるか、今学期 2 つのクラスを担当していますから、他の講師にもお許しをいただいて試してみるつもりです。

新教材は講師の皆さんがそれぞれ工夫を凝らして使っています。いろいろな意見を取り入れつつ、試行錯誤試してみようと思います。また、次の機会に、ここでご報告できるよう成果をあげたいものです。

北内直子 (TIJ)

「中級から学ぶ日本語」本文理解用シート

-作成経緯-

TIJ では初級から中級に進んだ段階で主教材として「中級から学ぶ日本語 (KENKYUSHA)」を使用しています。このテキストを長年使用しながらも、学習者が読解力を付けるために私たち教師は的確な授業内容が提供できているのかどうかということが課題としていつも挙がっていました。

このテキストは本文を読んだあと、「答えましょう」で本文の内容が理解できているかどうかが問われ、「まとめましょう」で本文を要約するようになっています。

「答えましょう」の設問は本文の筋を追って内容確認が八問、本文テーマに関して学習者の意見を述べる設問が二問あります。内容確認の設問では、ほとんどの学習者は問われた部分を本文から探し出し、解答となる文を語尾の表現もそのまま抜き出してしまいます。

文章を簡潔に整理して答えるということができません。ですから、質問に対する答えの形が取れていないのはもちろん、ただ字面を追うだけで正確には文章構成が理解できていないのではないかと私たち教師は考えました。

そこで文章全体の構成の理解を促すにはどのような方法が良いのかを検討した結果、内容に関する質問に答えを文章で書かせるよりは、内容を整理して図表化した方がいいのではないかということになりました。図表化することで学習者が文章全体の構成を頭の中に整理して描けるのではないかと考え、その図表を TIJ で以前作成したワークシートに付け加えることにしました。

ただ、図表にしてみると、簡潔に整理することはなかなか難しいもので、各段落の要点を本文に書かれている文章でそのまま書き出す形になってしまうこともあります。実際に授業で使用してみると、多くの部分を本文から抜き書きしなければならず、時間ばかりかかってしまったり、どう書けばいいのかが分かりにくかったりします。

今のところまだ教師一人ひとりの意図が微妙に違って、形も統一していません。今後は実際に授業で使ってみて、その都度検証していかなければならないと思います。

山本けい子 (TIJ)

「中級から学ぶ日本語」本文理解用シート

-作成しての感想-

2011年10月24日(月)の月例会議で、『中級から学ぶ日本語』の新ワークシートを作成することになった。

目的は、各課の文章全体の構成を理解させるためだが、本書は、文型や語彙を導入するために書き起こされたため、文の不自然さや、テーマと内容の関連のわかりにくさがみられ、どのように構成を理解させるかが難しかった。作成にあたっては、基本的に、各段落を要約するものとして作成した。シートは、本文の精読後に導入した。

以下、担当した4課と5課について報告する。参考までに『教師用マニュアル』の「課のねらい」を付記する。

4課「あきれる」 『教師用マニュアル』

課のねらい：外国人が日本で生活して驚いたりあきれたりしたことを紹介し、日本人の生活習慣や価値観、各国におけるそれぞれの違いに注目する。

- 1 段落：朝の満員の通勤電車と夜の電車で酔っばらって寝ているサラリーマンについての筆者の感想
- 2 段落：電車の中の若い母親と子供たちについての筆者の感想
- 3 段落：筆者の日本に対する印象の変化と意見（来日前と来日後）

【次の次のページの4課シート参照】

内容は、外国人の筆者が電車の中で見た日本人のあきれた行為について書かれている。

内容そのものは難しくなく理解しやすい。だが、本文には、「課のねらい」である筆者の国との違いが書かれていないので、どうして不思議に思ったり、驚いたりしたのかは学生に考えさせるしかない。この点は、読んでいて物足りなさを感じる。これらの理由を考えさせるようなシートを作成したかったが、まだ4課の段階では、初級を終えた学生が、きちんと説明するのは難しい。また、まとめ部分の「ちょっと心配になってくるのです」との筆者の意見は、段落全体から「日本の将来」について心配しているのだろうと推測できるが、「子供たちが大きくなること」に限定した答えも返ってきた。

5課「たべる」

課のねらい：食べることの日常生活における位置づけ、また、人がそれにどう対応しているかを、いろいろな側面から考察する

- 1 段落：仲間と料理をしていたとき、野菜の皮を剥くか剥かないかで騒ぎになったこと
- 2 段落：(1段落の内容を受けて)自分のやり方と違えば、だれでもおかしいと思うこと
- 3 段落：知らない土地の人と友達になる方法

【次の次のページの5課シート参照】

1、2段落は、確かに日常生活でよく見かけられる光景であり、人により「料理方法の違いがある」ことがわかりやすい。しかし、3段落の「……同じテーブルを囲んで飲み、食べ、一緒に笑うことが大切だ。そうすれば、特別な努力をしなくても、いい友達を作れることができるということなのだろう」からは、この課のテーマは「異文化交流」だと結論づけているようにも受け取られる。テーマは、あくまでも「たべる」ことなのだが、1、2段落から3段落への話の流れがしっくりこない。

実際に、授業で使用した結果は、学生の大半が該当する文をそのまま書き写してしまう。4、5課の段階では、文章から中心文を探し出すことがまだできない。表の書き方も理解できていないことなどから、キーワードをヒントに要約することが難しい。

また、教師自身が文章に違和感を覚え、全体の構成から各課の「テーマ」が理解できるような表作りができなかった。結果として、段落ごとの表面的なまとめにとどまってしまった点は、今後の反省材料である。

木村ゆみ (TIJ)

【4課シート】

() に、【 】 から適当な言葉を選んで書きなさい。

___の部分には本文を参考に適当な文を入れて、完成させなさい。

【 若い母親 日本人を知る教室 外国人である 】

段落	見出し	() 筆者の意見
1	電車の中は ()	毎日利用する電車は、 _____ _____だ。 不思議に思ったこと 日本人が _____ _____こと 驚いたこと _____こと
2	電車の中の ()	母親たちにあきれたこと ①子供たちが騒いでも、 _____ _____こと ② _____
3	日本の印象 <small>いんしょう</small> の変化	日本に来る前は、 _____ _____聞いていた。 日本に来てからは、 _____ _____

【5課シート】

1 各段落の内容を簡単にまとめなさい。

段落	内容	要約
1	仲間と料理をしていたときのこと	気の合う仲間と料理を作っているとき、トマトやキュウリの皮を_____か、_____か、どちらが_____か、_____と言いはじめて、料理の手が止まった。
2	自分と違うものと出会ったとき	自分の食べ方や、料理のし方が違うと、_____。 理由は、_____からで、 _____ことはよくある。
3	知らない土地の人と友達になる方法	_____ことが大切だ。 そうすれば、_____だろう。

2 筆者が最も言いたいことと思われるものを選びなさい。

- 1 気の合う仲間と料理を作るときは、料理のし方が違うから気を付けなければいけない。
- 2 知らない人と、一緒に食べ、飲み、笑うのは、健康に良い。
- 3 国や人が違えば、やり方も習慣も違う。まずは、一緒に何かやってみることが大切だ。
- 4 国や人が違えば、習慣もいろいろ違うのだから、一緒に何かやってみることは難しい。

TIJ だより

5月9日入学式



副理事長の挨拶



新小岩公園で記念撮影

東日本大震災のために延期になっていた2011年4月生の入学式。大震災の影響が心配されましたが、一人の辞退者もなく、全員が入学しました。

5月31日新入生校外授業



江戸東京博物館の入口で記念写真



本物の人間かと思ったら人形でした

2011年の新入生たちが、5月31日に両国の江戸東京博物館を見学に行きました。2時間ほどの見学でしたが、江戸時代の文化に触れて、皆さん興味深そうでした。

10月5日入学式



学生証授与



雨のため校内で記念撮影

新入生たちは日本に留学でき、期待に胸をふくらませている様子でした。

10月26日新入生校外授業



いい天気でした



相撲力士になったつもり！

春入学の学生と同じく、今年は江戸東京博物館に行きました。

12月18日クリスマス会



サンタクロースの衣装、いいですね



ダンス、とても上手でした



インドネシアのダンス、みなさん、真似できますか

地区センターのホールでクリスマス会をやりました。各クラスと先生たちが出し物を披露し、楽しい時間を過ごしました。